

かがやく自分をめざして

～小・中のつながりを意識したキャリア教育～

美祢市立大嶺中学校、大嶺小学校、城原小学校、重安小学校、麦川小学校

キャリア教育の観点

大嶺中学校区では、地域の教育力を活用するとともに豊かな体験活動を軸とし、「かがやく自分をめざして」と題した小・中学校の9年間をつなぐ「キャリア・アルバム」づくりの共同実践を行っています。このことを通して、他者の立場や考えを理解すること、自分の立場と役割を自覚し、自分にできることを進んでしようとする意欲をもつこと、自己の肯定的な理解に基づいて主体的に行動し、自らの成長のために学び続けようとする姿勢をもつことをねらっています。

【人間関係形成・社会形成能力】【自己理解・自己管理能力】【課題解決能力】

各校の特色を生かした体験活動

大嶺中学校 市内企業の見学

1年生は、職場見学を通して、職業について理解を深め、自らの進路について考える「地域学習」に取り組む。また、二学期には、働くことの意義や望ましい職業観を育てる「福祉施設訪問」を行う。



大嶺小学校

「運動会での全校縦割りダンス」

赤（縦割り班1～16班）白（17～32班）ごとに、創作ダンスに取り組む。6年生のダンスリーダーを中心に夏休み中から、準備・練習を始める。1～6年生までが学年に応じた役割を担い、助け合い協力し合いながら練習する。本番では児童のダンスに大きな拍手がおこる。大嶺小運動会の目玉のひとつである。



城原小学校

「わくわく宿泊体験学習」

自然と親しみ、人とのふれあいを通してよりよい人間関係を培う場として、毎年一般家庭への宿泊を取り入れた宿泊体験学習を全校で行っている。



重安小学校

「JRC活動を中心とした取組」

全校で取り組むJRC活動（ボランティア・環境・地域活性化）のほかに、3・4年生が中心となって野菜を作り、販売したお金を東北への義援金にする活動をしている。



麦川小学校

「麦川ありがとう作戦」

日頃お世話になっている地域の方々に感謝の気持ちを表そうとするボランティア活動である。児童の環境・美化委員会が、企画・運営して登校班ごとに自分たちの地区のクリーン活動を行っている。



自分が
できること

自分が
したいこと

社会が
もっていること

小中学校で連携のもと共通理解して取り組むこと

- ①児童・生徒の学習意欲向上・学力向上の手立て・・・自主学習の奨励。指名されたら返事をして立つ。発表者の方を向いて聞く。意識をもって時間厳守。
- ②児童・生徒の基本的な生活習慣づくりの手立て・・・チェックシートの活用（早寝早起き・食生活の充実）
- ③一人ひとりに対応した特別支援教育の手立て・・・進学については早い時期から情報を共有する。保護者、児童・生徒、教員が交流や訪問をすることでつながりをつくっていく。
- ④生徒指導上課題のある児童・生徒への指導の手立て・・・あいさつ運動。人間関係づくり。基本的な生活習慣の徹底指導。

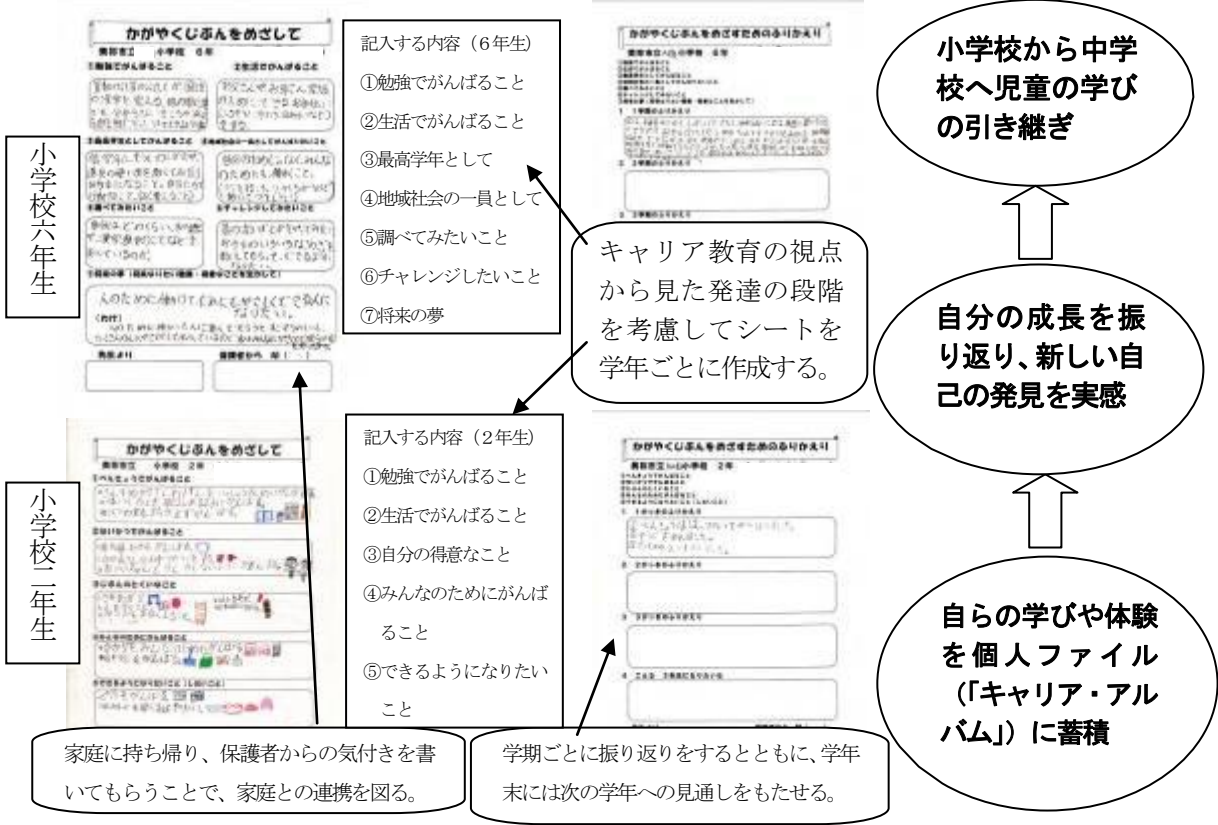
「キャリア・アルバム」の共同実践 「かがやく自分をめざして」
 ～小・中学校の9年間をつなぐ「キャリア・アルバム」～

「かがやく自分をめざして」の取組

- ・大嶺中学校区区の4小学校で共通のシートを使用する。
- ・「キャリア・アルバム」には各学年3枚のシートを綴じていく。
- ・中学校進学時に小学校で作成した「キャリア・アルバム」を引き継ぐ。
- ・大嶺中学校の「キャリア・アルバム」については、来年度からの実施をめざし現在作成中である。

学年で作成する3枚のシート

- ①「かがやく自分をめざして」
- ②「かがやく自分をめざすためのふりかえり」
- ③「思い出シート」・・・各学年での思い出、心に残った行事や学習などをまとめたもの。



成果と課題

大嶺中学校区においては、それぞれの学校の特色、地域の特性を生かしながら体験活動を中心に据えたキャリア教育を展開している。それぞれが発達の段階に応じ「自分がしたいこと」「自分ができること」「社会が求めていること」について児童生徒が考えることができるよう計画的・組織的・継続的にキャリア教育に取り組んでいる。今回、互いの実践について知り、特色やよさを共有できたことは、生きることや働くことの素晴らしさを知り、未来を自分の力で切り開き、力強く生きていこうとする意欲や力をもつ児童・生徒の育成に資するものであると言える。また、「かがやく自分をめざして」と題した小・中学校の9年間をつなぐ「キャリア・アルバム」づくりの共同実践も小・小連携、小・中連携を深め、校区の児童生徒のキャリア発達を促すためには意義深いものである。しかしながら、「キャリア・アルバム」づくりの共同実践は始まったばかりであり、シートの中味、学年間のつなぎ、小学校から中学校への引き継ぎ方、保護者との連携の在り方等課題も多い。取組の検証を協働で行いながらよりよいものにしていきたい。